

a 学校教育目標	学びに向かい、心豊かで、健やかな児童の育成 ～「かしこく」「やさしく」「たくましく」～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 「通ってよかった」「通わせてよかった」と誇りに思われる学校									
----------	--	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価計画					自己評価					改善方策	学校関係者評価				
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	確かな学力の育成(かしこく)	基礎学力の定着	○学力向上に向けた計画的、効果的な取組の実施及び個への支援手立てと授業改善策の検討 ○学力調査分析事業の活用 ○家庭学習をやり切らせる指導とICT活用による家庭学習の実施	○算数科・国語科単元末テスト通過率(知識・技能)	85%	87.2%		102%	A	・算数科・国語科の単元末テスト(知識・技能)の平均点は、算数科が86.9点、国語科が87.6点であった。全体の結果で見ると、算数科・国語科ともに目標値の85%は達成したが、算数科・国語科ともに、3つの学年で目標を達成することができなかった。	・知識・技能、思考・判断・表現とともに目標値を達成することはできたが、学年ごとの結果を見ると、学力C層とA・B層の児童の差が大きかった。授業研究をもとに授業改善を行い、全体の学力向上に努めているが、学力に課題がある児童に対してどのような支援ができるのか検討するとともに、支援の体制についても検討していく。 ・学力向上の取組として実施しているアシストシートについては、課題部分に対応したものを今後も活用し、定着を目指していく。 ・思考力・判断力・表現力については、算数科を中心に取り組んでいる、「図、式、表、グラフなどを指しながら説明」や、「反応例・質問例の活用」などを通して児童同士の対話を促し、授業の中で思考・表現させることに継続して取り組むことで、数値の向上を目指していく。				
		思考力・表現力の向上	○対話を生み出す発問の検討 ○「図、式、表、グラフなどを指しながら説明している」、「視点に沿って振り返りを書いている」等の視点による授業評価票を活用した授業改善 ○定期アンケート評価による成果と課題の把握、分析、改善策検討	○算数科・国語科の単元末テスト通過率(思考・判断・表現)	80%	85.2%		106.0%	A	・算数科・国語科の単元末テスト(思考・判断・表現)の平均点は、算数科が81.6点(102%)、国語科が88.8点(111%)であった。全体の結果で見ると、算数科・国語科ともに目標値の80%は達成したが、算数科においては、2つの学年で目標値を達成することができなかった。	・これまでの授業研究を通して明らかになった、課題や改善点をもとに、各授業者が授業改善を図ってきたことで、児童の説明の仕方が定着してきたと考えられる。普段の授業での積み上げが重要であるため、今後も全学年で説明の仕方を意識させていく。 ・振り返りについては、年度当初に比べて2文を意識できるようになった児童や、目標に迫る内容を書くことができるようになった児童など、変化が見られるようになった。その一方で、書き方が定着しない児童もいるため、他の児童が書いたR80手本として提示したり、細かく評価するなどして、質の向上を図る。				
			○授業評価票「図、式、表、グラフなどを指しながら説明している」、「視点に沿って振り返りを書いている」評価項目の平均ポイント3.6(4段階評価)以上の職員の割合 ○児童アンケートの肯定的評価の割合	8月85% 12月90%	90.0%	105%	A	・授業評価票「図、式、表、グラフなどを指しながら説明している」、「図、式、表、グラフなどを指しながら説明している」の項目の平均は90%(3.25)、「視点に沿って振り返りを書いている」の項目の平均は90%(3.26)であった。							
豊かな心	豊かな心の育成(優しく)	ふるさとを愛する心 情の育成	○生活科、総合的な学習の時間を中心とした学校運営協議会を活用した事業を推進し、地域への愛着・感謝の心を育てる。	○学校アンケート「小泉の地域の役に立つ行動がしたい」肯定的評価4の児童の割合	90%	96%		107%	A	・アンケート「小泉の地域の役に立つ行動がしたい」の項目に96%の児童が肯定的な回答をした。 ・これまでに、4月に遠足で地域を数回した。また、民生委員の方々や保護者の協力のもと、1・2年生が「さつまいもの収穫えいせいもり」や「昔遊び」をしている。1年生は「箱割り」2年生は「さくら荘の見学」「郵便局の見学」「白滝園の見学」にも行っている。3年生は「特別支援学校との交流」、4年生は「水辺教室」「防災学習」、5年生は「里芋や米の農業体験」、6年生は「白滝園で小泉太鼓の披露」をしている。去年に続き、全学年、地域の方が「本の読み語り」をしてくださっている。地域の方々や保護者の方々の力が支えとなり学習活動が成果につながっていると考える。	・今後も、「消防団の見学」「キャリア教育」「プログラミング教育」など地域の方々に協力してもらいながら進めていく。また、小泉の地域の一人としてできることを自分事として考えさせたり、表現する場を設定したりして地域への愛着・感謝の心を育てていく。				
		児童の自己有用感の醸成	○学級活動や特別活動の充実	○自己肯定感アンケートの児童の肯定的評価の割合	90%	87.8%		97.5%	B	・アンケート「今の自分に満足していますか」の項目に86%、「自分の良いところを知っていますか」の項目に87%、「自分にも人の役に立つことができると思いますか」の項目に83%、「頑張っていることはありますか」の項目に95%の児童が肯定的な回答をした。 ・6月実施のi-checkにおいて、A群B群に属する児童は、88.2%いた。週に1回SSTの時間をとったり、行事等を通して、異学年交流を行ったりする時間を確保しているためであると考える。また、学期に1回は個人面談を行い、児童の状況を把握する時間を設けている。	・掃除や遠足等で縦割り班活動を取り入れているからこそ、望ましい行動をしている児童を様々な視点でたくさん教師が評価をし、価値付けていく。また、各学級での指導の足並みを揃えるために、全体指導を行いながら、組織的な指導を継続して行っていく必要がある。 ・支援を必要とする児童も数名いるため、個別の指導を行い、学校全体で指導・支援していく必要がある。引き続き、全教職員で情報を細やかに共有していく。				
			○学習環境調査「i-check」や定期アンケートの評価による成果と課題把握、分析、改善策検討	○学習環境調査「i-check」(6月、12月)分析による「自己肯定感」「学級適応感」のA群B群の割合で評価	70%	88.2%		126%	A						
健やかな体	健やかな体の育成(たくましく)	運動意欲の向上	○アンケートの結果分析による課題分析をし、取組内容の決定と実施 ○体育科における運動遊びの実施 ○休憩時間等を活用した学級遊びの取組実施	○運動やスポーツが好きな児童の割合	7月 90% 12月 95%	100%		111.1%	A	・「体を動かすことは好きですか。」という質問に対する肯定的評価は100%であった。がんばり朝会の中で様々な運動遊びを行ったり、体育科の授業等で、楽しく体を動かしたりすることを継続して経験できたことが影響しているのではないかと考えられる。 しかし、「学校や家庭で外遊びをしていますか。」という質問に対しては、15%の児童が否定的な回答をしていた。	・2学期以降も、がんばり朝会や日々の体育の時間での活動を通して、運動が好きだと思える児童を育成していく。 ・継続して、体育科の授業で、主運動につながるような運動遊びを積極的に取り入れる取り組みを、学校全体で進めていく。 ・児童会による全校遊びの取組や学級遊び等を定期的に行うなど、外遊びの充実を図る。				
		体をつくる	○給食を食べ切る分量の自己決定と完食しようと努力する児童の育成 ○食に対する感謝の気持ちを醸成する指導、取組実施 ○歯を大切にしようとする児童の育成	①学校アンケート「給食は自分で決めた分量を食べていますか」の肯定的評価 ②お昼の歯みがきをする児童	①95% ②90%	93% 93.5%		97.9% 103.8%	B	・給食の量を自己決定し食べているかは、目標値に達しなかった。しかし、完食の取組後のアンケートでは、苦手な食べ物にチャレンジ出来た児童は94.9%、完食の意識が高まった児童は96.1%だった。 ・配膳員さんの仕事を紹介することで97.4%の児童が感謝の気持ちが高まったと答えている。 ・「お昼の歯みがきをしている」に肯定的評価をした児童は93.5%だった。しかし、毎日給食後の歯みがきが出来ている児童は74%だった。	・2学期にも、ばくばく給食週間を実施し、給食の食材の栄養や効能等を紹介したり、生産者さんへのインタビュー、養護教諭による栄養指導、栄養士を招聘しての食育等を実施することを通して、完食の意識や感謝の気持ちを高めることが出来るようにする。 ・2学期にお昼の歯みがき強化週間の取組を行った。スタンプラリー、スライド放送、歯みがき動画放送を行い、クラスで毎日歯みがきをした人が多いクラスに賞状を渡すという計画で実施した。その結果、強化週間中に毎日歯みがきをする事が出来た児童は、91.0%だった。今後も歯みがきが定着するように取り組む。				
信頼される学校	信頼される学校づくり	発信する	○学校便りの定期的な発行とPTAを活用した地域への配付 ○学年便りの発行 ○すぐーるで随時情報を発信したり、保護者と細やかな連携を図ったりする	○保護者アンケートにおける「学校は保護者の願いに応えた教育を行っていると思われるか」の肯定的評価	90%	98%		100.8%	A	・「学校は保護者の願いに応えた教育を行っていると思いますか」のアンケートに対して肯定的評価は98%であった。 ・学校だよりは、5月以外は、毎月発行し、保護者へ「すぐーる」で情報発信することができた。また、地域への回覧も保護者に依頼している。今後も定期的な情報発信を継続していく。	・引き続き、「学校だより」の定期的な発行を行い、学校の取組や児童のがんばる様子を保護者に発信していく。 また、学年通信で児童の具体的な姿を発信したり、日々の児童の様子について保護者と細目に連携を図ったりしていく。 ・学級懇談会でも学校の取組や児童のがんばり等を伝えたり、保護者の思いに寄り添ったりしながら日々の教育活動を丁寧に行っていく。				
		組織の活性化と効果的な教育活動推進	○学校経営会議を核としたベクトルを揃えた取組実施 ○各部会(研究推進部、生徒指導部、保健体育部)における進捗管理とPDCAサイクルの活用による改善策の検討実施 ○担任者会における教職員の交流による取組の円滑な遂行 ○学校経営会議、三部会等を活用、教員の業務改善案を取り入れた業務改善の推進	○「1年のうち1月における時間外在校等時間が45時間を超える月数6月以内」の職員の割合	100%	86.3%		86.3%	B	・時間外在校等時間が45時間を超える職員が、4月5名、5月2名、6月2名、7・9月1名である。見通しを持ち、計画的に業務を遂行していくことに課題があった。 ・学校経営会議や担任者会等で協議した事項について、組織的に取り組むことに課題が見られた。	・週に1回は、定時退校できるように声掛けを行ったり、見通しをもち計画的に職務が遂行できるよう、暮会や掲示ボードで周知したりしていく。 ・準衛生委員会等、教職員の状況を互いに把握したり改善できることはないか考えたりして、業務内容の見直しを行っていく。 また、職員とコミュニケーションを密に図ったり、進捗状況を確認したりして、組織力の向上に取り組んでいく。				

【j: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80 ≦ (ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【l: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。